

横浜アクションアワード 第1回

実施報告書



横浜アクションアワードとは

横浜アクションアワードは、**若者と地域のNPOや団体がパートナーシップを組んで活動している事例**を多くの方に知ってもらい、広げていくためのアワードです。



発信する

学生と地域の連携による活動の魅力や意義、そして課題を発信します。



つながる

参加団体同士、団体と参加者、いろんな人がつながり合う場を運営します。



未来へつなぐ

この場での出会いが活動を次のステージへ。未来へとバトンをつなぎます。

はじめに

私たちアクションポート横浜では「まちにたくさんの主人公を」というキャッチコピーのもと、NPOインターンシップ事業をはじめとする、若者と地域のつながりを育む活動を行ってきました。若者がまちに関わることは、次世代の人材の育成だけでなく地域の活性化にもつながり、今後ますます重要になってきます。

そうした若者と地域のパートナーシップ活動をより応援し、広げていくために、「横浜アクションアワード」を創設しました。

若者と地域の活動には多くのメリットがある一方で、モチベーションのマッチングや、短いスパンで世代交代してしまう若者との活動の継続など、難しさもあります。

このアワードは一方的に活動を評価する賞ではなく、そんな難しさも含めて活動を広く知ってもらい、若者を応援する場、つながりを広げる場です。そのため、大賞受賞団体には賞金に加えて、アクションポート横浜による活動支援サービスを提供し、また、当日一般参加者は自分が応援したいプロジェクトに寄付ができるなどの仕組みを設けました。

今回は5つの事例のプレゼン審査がありましたが、どの発表も多様で視点も異なり、若者と地域のパートナーシップといっても非常に様々な連携があると感じました。

大賞・協賛賞を選びましたが、どの活動も素晴らしい内容で、会場の皆さんにもその想いの熱量が伝わったと思います。

また、後半の交流会では大人の方から参加団体の学生に声をかけてくださるシーンを見かけたり、参加団体からも一緒に活動する仲間が見つかったとの声をもらいました。

この場をきっかけに、参加してくださった皆さんの活動の発展にささやかながらも貢献できたのではと思っています。

アワードの趣旨からするとこの場はゴールではなく、スタートです。

アクションポート横浜として、若者と地域の活動がより発展していけるように、団体や参加者の皆さんとコミュニケーションを取りながら、活動を応援していきます。そして次年度のアワードの運営につなげていきたいと思っています。

アワードの流れ

エントリー募集期間
12月1日(日)～1月6日(月)17:00

一次書類審査
アクションポート横浜事務局が審査

二次プレゼンテーション審査
外部有識者数名による審査

大賞 決定

【応募資格】

- ・横浜市内の活動であること
- ・30歳以下の若者グループ・個人であること
- ・若者と地域コミュニティの連携事例であること
- ・地域活性化や社会性の高い活動であること
- ・2019年度に実施している活動、および、2020年度に実施予定の活動

【賞および副賞】

- ・大賞
賞金1万円+団体の課題をAPYがサポート
- ・協賛賞
中華街クオカード (5千円×2団体)

大賞 「まち×学生プロジェクト」



神奈川大学ボランティア支援室×六角橋自治連合会

自身の4年間を振り返る、良い機会になりました。横浜でいろんな活動をしている同年代の学生が多くいる事を知り嬉しかったです。プレゼンで順位をつけられるのは初めてでしたが、大賞を頂けたのはまちかけで出会えた「仲間」のおかげです。まちかけに関われたことを誇りに思います。（小倉さん）

このように5年続けてきた活動が評価されたことをうれしく思っています。これからも若い世代が活躍できる場をまちも学生と一緒にかんがえていきたい。（森会長）

5年間、まちと学生が代々紡いできた活動がこのような形で評価されたことをとても嬉しく感じています。《まち学生》ではなく《まち×学生》と3つの立場の違う人や組織が並列に繋がる！簡単そうに見えて実践するとなると難しい…そんな活動に携わっている事を誇りに思っています。もちろん、課題や苦勞もたくさんありますが、今回のアワード受賞団体をはじめ学生に限らず《まち》と《若者》が共に力を合わせて取組む活動が小地域でたくさん展開され、横浜発のまちづくりが全国へ発信できると嬉しいです。（原島さん）

大賞には賞状と賞金、アクションポート横浜からの活動サポートが贈られました。

協賛賞



横浜国立大学生×NPO法人オールさこんやま

協賛賞やコメント、寄付をいただけて本当にありがとうございます。そして何より神奈川県内で活躍している同年代の他の団体の方と繋がれたことが今後に活きると思います。ありがとうございました！



フェリス女学院大学エコキャンパス研究会 ×横浜市環境創造局

協賛賞をとれてとても嬉しいです。普段同じ横浜で活躍している学生たちの熱意を感じ、刺激を受けることが出来ました。また、色々な繋がりができるキッカケになりました。ありがとうございました。

協賛賞には横浜中華街パーキング協同組合様から中華街商品券が贈られました。

公開プレゼンテーション

開催日時 : 2月15日(土) 14:00~17:00
会場 : リストグループ本社1階 ラウンジ
参加者数 : 60名 (一般 22名、発表団体 17名、審査員・スタッフ 21名)

一般参加者内訳

NPO : 5名 企業 : 4名 行政 : 2名
大学 : 4名 高校生 : 2名 その他 : 5名

プログラム

14:00~ スタート
14:10~ **プレゼンテーション審査**
15:40~ 休憩
15:50~ **ドネーション交流会**
16:40~ 審査結果発表
17:00~ 交流タイム (17:30終了)

プレゼンテーション審査員

石井 直樹様 (石井造園株式会社 社長)
石原 遼平様 (NPO法人A SEED JAPAN 事務局長)
西尾 愛様 (認定NPO法人藤沢市民活動推進機構)
萩原 雄生様 (神奈川県福祉子どもみらい局)
倉田 真希様 (横浜市政策局男女共同参画課)
神奈川県立港北高校 高校生のお二人

*審査員には企業、行政、若者NPO、中間支援NPO、高校生と大学生を取り巻く多様な立場、世代の方に参加いただきました。

① プレゼンテーション審査

1団体7分(発表5分+パートナーからのコメント2分)のプレゼンテーションののちに、審査員からの質疑を7分間行いました。



審査基準



発表は学生に加え、パートナー団体の方と一緒に！



高校生審査員からも活発に質問があがりました！

①ビジョン性、②継続性、③チャレンジ性、④パートナーシップ性、⑤波及性、⑥若者らしさ

参加の
しくみ

3

1 審査に参加

一般参加者の皆さんも審査員と同じ評価項目でWEBで審査に参加。
(平均点が会場審査として採点に加算)

2 メッセージで応援！

メッセージ、プレゼンの感想などをカードに書いて、団体を応援！



②ドネーション交流会

参加者が団体と直接交流して応援できる、ドネーション交流会を行いました。



交流会ではプレゼン団体の課題をテーマに参加者と意見交換しました。直接団体と話すことで、活動への理解も広がるし、また団体への思い・愛着も生まれ、ファンになってくれる。そんな場になればという思いで運営しました。

自分達の団体が抱える問題について、様々な視点からアドバイスをいただくことができとても参考になりました。また、社会人の方々が学生の活動にここまで関心を持っていて、さらに協力しようとしてくれている事に驚きました。横浜市立大学StepUp↑ 高橋さん



学生団体の課題に参加者が知恵をしばって意見を交わすという時間があつたのが素晴らしかったです。学生を応援するあたたかな雰囲気が素敵でした。（地域関係者：参加者アンケートより）

③審査結果発表

審査員より、協賛賞受賞2団体と、大賞受賞1団体の発表を行いました。また、その後、審査委員のみなさんより講評をいただきました。



④交流会

終了後に30分程度、自由交流タイムを設けました。



3 ドネーションで応援！

「サポートカード」を使って、参加団体にドネーション（寄付）で応援できます。1枚につき、500円が後ほどアクションポートより団体へ寄付されます。



今回の交流会でサポートカード16枚、合計8,000円が団体へ寄付されました。

プレゼン団体

フェリス女学院大学エコキャンパス研究会×横浜市環境創造局



地域・国際貢献につながる「女子大生にもできる楽しいエコ活動」
「女子大生にもできる楽しいエコ活動」を目指して、メンバーの話し合いから生まれた様々なアイデアを一つずつ実現し、地域・国際貢献を念頭に、テーマの幅をマイボトル、地産地消、フェアトレード等にも広げ、地元の企業や行政の皆様とも連携しています。

神奈川大学山岡ゼミ×佐藤農園・永島農園



「佐藤農園と永島農園における農業の多面的機能」
神奈川大学経営学部国際経営学科の山岡准教授のゼミナール内のグループ。山岡ゼミでは「持続可能な社会の構築の探求」を研究テーマとして掲げ、横浜市に限らず、伊勢原市、川崎市、小田原市等県内の各地域において食と農をつなぐことをテーマにした各種イベント等を企画・実施しています。

神奈川大学ボランティア支援室×六角橋自治連合会



「まち×学生プロジェクト」協働によるまちづくり活動
学生と地元住民が協働して考え・創る「まちづくり」を行うプロジェクト。まち（六角橋自治連合会）×（横浜市六角橋地域ケアプラザ）学生（神奈川大学学生ボランティア活動支援室）など複数の団体が連携し、神大マルシェやキャンドルナイトなど様々なプロジェクトを運営しています。

横浜市立大学StepUp↑×西大道町内会



子どもたちと学びや交流を深める「西大道寺子屋塾」の開催
環境ボランティアStepUp↑は、横浜市立大学の学内・学外において主に環境にかかわるボランティア活動を行う部活です。寺子屋塾は、町内の子どもたちがほかの学年の子どもや大学生、町内会の大人の方々と交流することで成長する場を提供したい、また地域の繋がりを作りまちを好きになってもらいたい、という思いから開催しています。

横浜国立大学生×NPO法人オールさこんやま



「サコラボ」学生による左近山団地の活性化
大規模な団地が多く立地している横浜市旭区において地域の担い手不足解消と地域コミュニティの構築を目的に横浜国立大学、UR 都市機構、横浜市旭区の三者で連携協定を締結。協定に基づき横国大生が左近山団地に入居し、「左近山団地をふるさとにしよう」をキャッチコピーに様々な活動を仕掛けています。

審査委員の皆さんより

横浜という市民の力があふれるこの街で、学生がどのような思いをして育ち、地域に貢献できるのか。そういう学生をほめて次のステップにつなげるような、そういうアワードをしたいと声をかけられて審査を引き受けました。

大賞をとった団体はさすがでしっかりした点数を取っていましたが、他は僅差。どの団体も素晴らしい発表でした。来年に向けてアワードは第二回、三回と続いていくと思います。活動を続け来年このステージに立つのは今日ここにいない次世代の誰かであり、想いを託していくのは本日の誉れ高きみなさんです。

このアワードはチャレンジする学生と合わせて、これほど地域で学生のみなさんのことを受け止める大人がいるんだっていうことを、伝えていく場もありました。今日は幸せな時間をありがとうございました！



石井造園 石井様



横浜市 倉田様

期待を大いに上回る、とても楽しい時間でした。アワードの趣旨や運営もすばらしいと思います。互いに刺激と学びがあり、これだけ“つながれる”場を、半日の中に作られていることに感銘を受けました。また、各団体からの発表内容が多様性に富んでいて視点が全く違うところも良かったです。ひとつ共通していたのは、みなさまとても楽しそうで、私も学生時代に戻れるなら一緒にいたいなと思いながらお聞きしていました。

地域との活動は地域に足をついてないと継続できないし、もともと地域にあったものがアップデートされて展開されていくと思います。皆さんの発表はまさにその部分を大事にされていたので、こちらも勉強になりました。お互いに頑張りましょう！



A SEED JAPAN 石原様



藤沢市民活動推進機構 西尾様

みなさんすごく熱意をもって活動している様子が伝わってきました。今やっている活動の経験が社会人になって生きてくるタイミングがきっとあると思うので、是非続けてほしいと思います。

団体の皆さんが楽しくやられている様子が伝わってきました。楽しければ続いていくので、楽しいということはすごく大事だと思います。また、この場を通じて活動している人たち同士が情報交換できる、つながれることがすごく大事ななので、是非活動に活かしてもらえればと思います。



神奈川県 萩原様



港北高校 高校生

緊張して、最初の方は質問できなかつたらどうしようと思っていたが、会場の雰囲気ですごくよくて、大人の人たちもすごく優しく僕たちの意見に耳を傾けてくれて、やりやすかったです。高校生の目線からしか見えない点もあれば嬉しい。これから大学に進学するので、今日の経験を参考にしたいと思う。



発行: 2020年3月 NPO法人アクションポート横浜



アクションポート
YOKOHAMA

〒231-0023 横浜市中区山下町94番地 横浜中華街パーキング協同組合内

TEL:045-662-4395

URL:<https://actionport-yokohama.org/>

アクションポート横浜

検索